



ペアレントトレーニング 「一宮っ子バージョン vol.4」

11月21日、一宮市市民活動支援センターで行われたペアレントトレーニングに参加させて頂きました。このプログラムは、「(軽度な発達障害を持つ)子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を学び、話し合い、練習して、より良い親子関係作りと子どもの適応行動の増加を目指す」と言う事が目的です。お子様、お孫様に障害のある保護者の方が数名参加されていて、プログラムの内容は資料に関する説明は勿論、それぞれ前回の課題を発表してアドバイスをし合ったり、「この場合〇〇の事業所はこうだったよ～」などの情報交換があったりとまさにお母様方のための勉強会という印象でした。

プログラムの内容もそうですが、参加されたお母様方も皆さん熱心な方ばかりで、どちらのお話も「こんなやり方もあったのか!」と考えさせられたり、それと共に今まで実践していた子どもへの対応に「やって良かった!」と自信が持てたりと、まだまだ未熟な私ですが本当にたくさんの刺激を頂きました。この気持ちを忘れずに、今後の現場でどんどん活かしていきたいと強く感じました。



親が変わって環境が変われば
「子どもは変わる」!!

デイサービス通信

カラオケ

大型テレビを寄付していただき、広場ではよく『カラオケ』で活用しています。

デイサービスでも最近はレクリエーションの時間に『カラオケ』を行うようになりました。皆さんにリクエストを聞くと結構、演歌だったり懐メロだったりします。

Sさんは「田端の曲はないか?」と、Tさんはご主人の思い出の曲をリクエストされました。Iさんは「青葉城恋歌」を熱唱されました。

一宮市役所の職員さんがボランティア研修に見えた時にも『カラオケ』をし、サザンオールスターズの「いとしのエリー」を歌われ、皆さんの手拍子で大いに盛り上がりました。

唱歌やわらべ唄なども伴奏が入ることで、一段と熱が入ります。クリスマス会でも『カラオケ大会』で今年は盛り上がりたと思います。



マイクを持ってカラオケを楽しむ



お正月飾りを作りました

心づれづれ

言葉の力



日頃より思っている言葉の使い方についてペンを取りました。

誰もが耳にしても心和む言葉と、顔をしかめる嫌な言葉があります。

天国と地獄に例えるように、使う言葉により、その人の人生までもが左右されて決まってしまう。人に勇気や希望などを与えるもの。反面、人を谷底へ落とすようなことを口にする人たちは、言葉の暴力に気付かずに、尚も口から毒を吐く日々、また、同じ言葉であっても、聞き手の時々感情により、受けた心に荒波が立ち、言葉の暴力により傷付く。どうせ人生一度きりならば、人を楽しくさせる天国言葉を好んで使っていきたいもの。

私は、定年前に病により倒れて、家・家族を失いました。こんな体とて、よき言葉を使って生きてきたことで多くの人々に支えられ、兄弟以上の絆さえも得ました。皆さんに感謝、感謝の毎日です。

昔から言葉には魂が宿ると言われてきました。

ことばの力ってすごいですね!

日々、お世話して頂くヘルパーさんへ…ありがとうございます。私は幸せだよ。その笑顔に支えられて、あと一つは、この場を提供して頂いたことです。

利用会員 中島 伸



ヘルパーだより

NO. 54

73歳、要支援1のAさんは、十数年前に交通事故で頸椎損傷を負われました。

その後遺症として、いつも砂の上を歩いているような感じがして、転倒を警戒しながら歩かれています。また右手が冷たいのを通り越して、しびれて痛いような感じがすることなどは、話を通して少しは本人の辛さがわかったつもりでいます。しかし見た目が健常者と変わらぬ為、他人に理解してもらえないことがとても苦しいようです。

現在は週1回のデイサービスと週2回の調理・買い物・掃除等の家事支援を利用されています。神経のしびれ、麻痺があってもご自分のできること(タオルをたたむことや洗いのものなど)をできる体調のときには積極的に行ってもらっています。

一人暮らしの淋しさや耳が遠くなったり、歯が悪くなったり、病気や怪我と色々な不安を抱えてみえますが、将棋・絵画・数独などの趣味に痛みを忘れるくらい熱中されています。最近は囲碁も始められたそうです。

また旅行がお好きで、色々な地方にも関心があり「恐山」へも行ってみたいとおっしゃっています。

障がいがありながらも、様々なことに興味を持っておられるAさんをこれからも応援していきたいと思えます。

利用者さんからのことば・・・

知り合いが亡くなったり、寝込んだりして付き合いが無くなり、落ち込んでいます。老いることは、孤独・絶望との戦いです。私はどうしたら良いのでしょうか?

